



届け、熱き魂の叫び。

越中富山  
福野

# 夜高祭

よたかまつり

5月1日・2日

富山県南砺市福野中心商店街

- 4月30日 前夜祭
- 5月1日 全町夜高行燈練り回し
- 2日 全町夜高行燈練り回し・引き合い
- 3日 四町曳輪巡行

又久の人行燈



5月3日 本祭曳輪巡行

●お問合せ 福野夜高祭連絡協議会 TEL 0763-22-1120 南砺市福野行政センター地域振興窓口 TEL 0763-22-1100

裏面もご覧下さい

# よ たか あん どん 夜高行燈の起源と由来

慶安3年(1650年)、阿曾三右衛門が加賀藩へ市場町を開きたいと願っていた「町立て」が許可されました。慶安5年(1652年)、大火に遭いほとんどの家が焼失してしまいました。

そこで町の再建と安全を願って、神明社を創建することとなり、氏神様として伊勢神宮から御分霊を勧請することになりました。その御分霊を奉じた一行が、俱利伽羅峠に差しかけた頃、日暮れとなりました。これを知った町民が手に手に燈火用の行燈を持って、この行列をお迎えしたことが、夜高行燈の起源になったとの伝承があります。

弘化年間(1844~1848年)の記録には神迎えと言われ、明治初年の記録には、「献燈」または「敬観燈」とも記されています。

毎年5月1日~2日に盛大に行われる夜高行燈の練り回しは「神迎え」の神事としての宵祭りです。5月3日の本祭りに行われる御神輿の町内御巡幸、曳軸及び屋台の巡幸曳きが一連の春季祭礼行事とされ、昭和初期まで続けられていました。

伝えられているところによると、文久年間(1861~1864年)に横町、浦町、新町に約12mの夜高行燈が作られました。明治25年(1892年)に電信線ができて、夜高行燈の高さが制限され、2丈5尺(7m58cm)より高いものは作ってはならないことになりました。しかし、それがいっこうに守られないため、明治28年(1895年)、五月祭礼献燈取締規則17条が宮総代によって出されました。これにより神明社に参拝する順序も詳しく決められ、夜高行燈は町端に行った証明を受けることになりました。また、夜高行燈が出会ったときは、下り行燈は、上り行燈に道を開けることも決まりました。

明治42年(1909年)に、全町に電話線がかけられたので、その翌年から夜高行燈の高さは2丈1尺(6m36cm)に制限され、今日に至っています。

夜高行燈は、太鼓や拍子木の囃子で夜高節を唄いながら町中を練り廻ります。歌詞には古いものと新しいものがあり、唄う調子によって上り唄、引き合い(休み)唄、下り唄の三つに区分されています。昭和7年(1932年)、詩人の野口雨情が来町して、福野小唄や夜高行燈の歌を数種作っています。「からす鳥は底なし空をヨ 笛や太鼓でササ飛びまわる」はその一つです。

平成2年(1990年)、猿が辻に夜高行燈シンボルタ

ワーが建てられ、平成12年(2000年)には開町350年記念として、高さ12mの文久の夜高行燈が再現されました。平成16年(2004年)福野夜高祭は「富山県無形民俗文化財」に指定されました。

現在、新町、浦町、辰巳町、横町、上町、七津屋、御蔵町の人行燈7本、中行燈・小行燈と合わせて23本が、五月空を勇壮華麗に福野の町中を練り回っています。

夜高行燈は、これまで、金沢の「前山利家公300年祭」、東京の「銀座まつり」、「名古屋市制100年祭」、香川県多度津町の「町制100周年記念たどつまつり」、「神戸祭」、「京都祭」、「いきいきとやま伝統芸能フェスタ」等に招待され参加しています。

そして、平成23年(2011年)12月には、フランスリヨン市において開催されたヨーロッパ最大級の祭「FETEDES LUMIERES 2011」(光の祭典2011)に招待され、大中小5本の行燈が4日連夜練り回しを行い、400万人の観客の喝采を浴びました。

また、平成25年(2013年)7月には、福島県南相馬市に震災支援遠征として浦町の中・小行燈を、同8月には、式年遷宮記念参拝事業として横町、七津屋の中行燈、新町の小行燈が伊勢市外宮参道を現地の子供たちにより練り回しが行なわれました。

平成26年(2014年)11月には、南砺市合併10周年記念イベントの一環として、東京武蔵野市吉祥寺駅前商店街を上町、七津屋、新町、辰巳町の小行燈4本が現地の子供たちにより練り回されました。

なお、横町制作の人行燈が、福野文化創造センター(ヘリオス)に、新町制作の人行燈が富山市の「ますのすし本舗 源」観光用レストハウスに常設展示されています。

